

【研究ノート】

## 北海道士別市におけるウチダザリガニの生息記録（速報）

本部 哲矢（士別市立博物館）

### はじめに

ウチダザリガニ *Pacifastacus leniusculus* はアメリカ北西部原産のザリガニで、日本へは1903年に初めて輸入された（自然環境研究センター, 2019）。北海道では1930年に摩周湖に放流されたのが始まりとされ、その後北海道内において急速に分布を拡大させている（Usio, 2007）。在来の生態系への影響が大きいため、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律において、特定外来生物に指定されている。



図1. ウチダザリガニ

天塩川本流では幌延町から名寄市までの生息が確認されている（斎藤ら, 2009）。天塩川上流域にあたる士別市では、詳細な調査は行われていないが、つくも水郷公園での生息記録（斎藤ら, 2016）のほか、朝日町での生息を示唆する記述（朝日町郷土室だより, 2008）がある。また、隣の剣淵町ではあるが、剣淵川の支流である桜岡貯水池下流の六線川においても生息が確認されている（斎藤ら, 2009）。これらの記録により、士別市内においても分布拡大や生息数増加が危惧されており、当市での防除活動の取り組みの必要性が強く叫ばれている。

本稿では、士別市における今後の普及活動・防除活動に向けた基礎的な情報を得るために実施したウチダザリガニの生息調査の結果について、ここに報告する。

### 調査方法

2020年7月および9月に、士別市内の天塩川本流3地点と剣淵川2地点、つくも水郷公園の池沼1地点で調査を行った（図2参照）。7月の調査ではたも網を使用し、9月の調査ではもんどりを合わせて使用した。もんどりは各地点2台（2020年9月23日のつくも水郷公園の調査では6台）を前日から一昼夜仕掛け、翌日の調査当日に回収した。回収の際には、たも網による探索を試みた。もんどりのかご内には、誘引するエサとしてサンマを入れた。捕獲した個体は、個体数をカウント、記録した。参考までに、全長、頭胸甲長、重量を計測し、雌雄や鉗脚の欠損、再生状況を確認した後、捕獲個体は殺処分した。



図 2. 調査地点概略地図

## 結果

調査した結果、表 1 のとおりとなった。各地点で捕獲個体数に差は見られたものの、全ての地点で生息が確認された。

表 1. 調査の結果

| 調査地点 |           | 調査年月日    | 個体数 (捕獲方法)                  |
|------|-----------|----------|-----------------------------|
| 天塩川  | 朝日町登和里橋下流 | 20200917 | 2exs. (もんどり)                |
|      | 上士別町菊水橋上流 | 20200917 | 1ex. (もんどり)                 |
|      | 士別橋上流     | 20200715 | 2exs. (たも網)                 |
|      |           | 20200913 | 12 exs. (もんどり)、3 exs. (たも網) |
|      |           | 20200917 | 15 exs. (もんどり)、4 exs. (たも網) |
| 剣淵川  | 不動大橋      | 20200715 | 1 ex. (たも網)                 |
|      |           | 20200913 | 18 exs. (もんどり)、2 exs. (たも網) |
|      | 名越大橋上流    | 20200715 | 4 exs. (たも網)                |
| 池沼   | つくも水郷公園   | 20200913 | 捕獲なし (もんどり)                 |
|      |           | 20200923 | 11 exs. (もんどり)、2 exs. (たも網) |

## 総括

朝日町登和里橋で生息が確認されたことから、これより下流ではいずれの場所でも生息の可能性が考えられる。今まで情報がなかった上士別町においても生息が確認されたことから、そのことがうかがえた。また、剣淵町六線川での生息記録（斎藤ら, 2009）より、下流にあたる剣淵川でも生息の可能性を危惧していたが、本調査において生息が明らかとなった。本調査により、士別市内においてウチダザリガニの分布が確実に拡大しているという実態が判明したと言えるだろう。

天塩川水系において、ウチダザリガニの生息拡大抑止のためには、上流域にあたる士別市での防除活動が必要であり、そのためにも調査を継続し、詳細な分布状況の把握に努める必要がある。例えば、天塩川本流における登和里橋よりも上流のエリアや、剣淵川と六線川の合流点よりも上流のエリア、その他天塩川に注ぐ各支流について、どの程度分布が広がっているのか、調査を進めていきたい。

ウチダザリガニの分布を広げてしまう要因の一つに、人が知らずに運んでしまうことが考えられる。つくも水郷公園の利用者や、河川に訪れる釣りや川遊び等の利用者が誤って持ち帰ってしまう可能性があるため、地域住民へのより一層の普及啓発が必要である。またそれにより、調査や防除活動に参加する協力者を増やすことにもつながるだろう。今後、ウチダザリガニの防除に関心を持つ個人、団体に対して、活動をバックアップできる体制を整えていきたい。

## 参考文献

- ・朝日町郷土資料室, 2008. あのウチダザリガニ 登和里に. 知恵の蔵だより, 92.
- ・Usio N・中田和義・川井唯史・北野聡, 2007. 特定外来生物シグナルザリガニ(*Pacifastacus leniusculus*)の分布状況と防除の現状. 陸水学雑誌, 68(3), 471-482.
- ・斎藤和範・高橋克己・福村聡・ざりがに探偵団・ウチダザリガニバスターズ, 2009. 北海道北部, 天塩川水系における特定外来生物ウチダザリガニの生息状況, 地域研究所年報, 32, 31-48.
- ・斎藤和範・田中宏武・ザリガニ探偵団, 2016. 名寄市内および天塩川支流の特定外来種ウチダザリガニと普及啓発に向けて. 北国研究収録, 15, 1-10.
- ・自然環境研究センター, 2019. 最新 日本の外来生物. 平凡社.